

意見の要旨とこれに対する府の考え方

項目	意見の要旨	府の考え方
高校教育の在り方について	・ 個を生かす教育が推進されている中、改革案は一人一人にあった進路選択ができるという点で期待する内容である。	・ 府立高校においては、21世紀社会を主体的に担い、豊かな心を持ち、たくましく生き抜く人間を育成することを重視し、変化の激しい社会に柔軟かつ的確に対応する能力や資質の育成に努めなければならないと考えています。 中学校卒業生のほとんどが高校に進学している現在（高校進学率約98％）、多様な能力・適性、興味・関心、進路希望を持つ生徒が高校に入学しています。府立高校においては、基礎・基本を徹底して学力の充実・向上を図るとともに、生徒一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす教育を進める必要があると考えており、生徒や保護者のニーズ、地域の状況などを踏まえた特色ある学校づくりを進めてまいります。
	・ 子どもたちが心身ともに成長し、これからの文明を支える教養を養うには、個人の能力を最大限に伸ばす教育環境が必要である。	
	・ 多様化、弾力化、主体的選択等の言葉がちりばめられているが、結果として、差別化、細分化、選別化、格差の拡大と固定化、競争という高校像が浮かぶ。	
	・ 中学校段階で自らの生き方を見つめさせる機会を持ち、目的意識をはっきりさせ、意欲的に高校生活を送れる要素を生み出すべきである。	・ 人間としての生き方にかかわる指導を基盤にして、小学校・中学校・高校間の連携を深めて、組織的、計画的、継続的な進路指導を推進することが大切であると考えております。自己の進路希望の実現に向け、意欲的な高校生活を送れるよう、「中学生から選ばれる高校づくり・希望する高校を選べるシステムづくり」の観点に立って、高校教育の改革・改善に努めてまいります。
	・ 小中学校では、自己選択能力の育成を重視した教育を推進している。小中学校で行う生き方指導とも結びつけ、高校での一層の充実が図られることを期待している。	
	・ 人権尊重こそが教育の基本である。人権教育、外国人教育の推進を盛り込んでほしい。	・ 基本的人権尊重の精神や道徳性のかん養を重視し、人権教育や道徳教育を積極的に進め、社会の一員としての公共心や規範意識を高め、よりよい人格の形成を促し、豊かな人間性をはぐくみます。また、生涯を通じて体育・スポーツ活動や芸術文化活動に親しむことができる能力や態度等を育成してまいります。 豊かな心を持ち、たくましく生きるなど「生きる力」の育成を基本とした教育を進めてまいります。
	・ 道徳規範の低下に危機感を感じている。義務を果たしてこそ権利を主張できることを考えさせるカリキュラムを取り入れるべきである。	
	・ 人間的に豊かに成長するためには、知・徳・体のバランスが必要である。ノーマライゼーションの理念にかなった他者への思いやりをはぐくむような徳育への理念も打ち出してほしい。	
	・ 高校受験は、中学生が自分の進路を真剣に考える最初の機会であってほしい。自分の進みたい高校を考え、選んで努力する過程を与えてほしい。	・ 高校教育は、義務教育の基礎の上に行われるものであり、入学に際しては選抜を行うこととされています。 中学生が希望する高校に入学するため、切磋琢磨し、その能力を高めようと努力することは充実した高校生活や将来の進路につなげる上で大切なことであると考えます。 中学校卒業生のほとんどが高校に進学している現在、生徒にとって魅力ある高校としての特色づくりを推進するとともに、多様な能力・適性や興味・関心を持つ生徒が、いかに自分に合った進路を的確に選択できるようにするかという視点に立って、入学者選抜制度の改善についても検討を進めてまいります。
	・ 高校に行きたい生徒は、すべて入学させるのが真の教育ではないか。	

項目	意見の要旨	府の考え方
新しい多様で柔軟な教育システムについて	- 一つの学校で多様なサービスを行うには、限界がある。学校の序列ではなく、特色や個性を出すことでより幅広い教育が可能になるものである。 - スポーツを中心に据えた学校、パソコンを専門にした学校、進学を中心にした学校など特色を鮮明にしてほしい。 - 将来の日本や世界をリードする志の高い生徒を育てる高校を設置してほしい。 - 大学進学実績のみを競うのではなく、すべての生徒を育てる、良さを引き出してくれる学校があって良い。 - 学力的に低い子どもを伸ばす教育に重点を置いてほしい。 - 先行き不透明な時代に、将来像を決める選択肢を多様化することは実状にあっていない。 - 多様なものを準備すると同時に、入学後の進路変更が可能な制度も必要である。 - 学校に特色化を強制し、序列化していくこの計画に反対である。 - 都市部から離れた地域においても、中学生にとって魅力ある高校を選択できるよう、すべての高校の改革をお願いする。 - 具体化に当たっては、地域性を考え、地域の特性に応じた柔軟なシステムを作り上げてほしい。 - 障害児学級をつくって、軽度の障害児は地元の高校に行けるようにしてほしい。	- これからの府立高校では、多様な生徒一人一人に対してよりの確に対応し、個々の生徒の能力や個性を最大限に伸ばす教育を推進するため、普通科の特色づくり、専門学科の充実、総合学科の増設、新しいタイプの単位制高校の設置、中高一貫教育の導入による「新しい多様で柔軟な教育システム」を築いていくことが必要と考えています。 また、「中学生から選ばれる高校づくり」の観点から、今後、個々の高校の特色とその果たすべき役割をより鮮明にし、府立高校全体として多様な教育内容を提供できるように改善を進める必要があると考えています。 そのためには、各高校が学校教育活動全般にわたり、様々な視点から検討し、特色を出していく必要があると考えております。例えば、同じ普通科でもそれぞれ教育課程に特色を出したり、部活動・学校行事・ボランティア活動・国際交流・人権学習・外国語学習、あるいは、就職後役立つ様々な資格取得・検定合格へのサポート、大学進学に向けての学力の伸長等に重点を置くなど、様々な特色が考えられます。 特色化に当たっては、生徒や保護者のニーズ、地域や各学校の状況を考慮して進めてまいります。 - 京都府は南北に長く、交通事情等も地域によって異なることから、地域の状況を踏まえ、府立高校の教育が全体としてよりよいシステムとなるよう、各高校の改革に努めてまいります。 - 府立高校では、入学者選抜において、当該校の教育課程を履修することが可能と判定される生徒について、障害の有無にかかわらず、入学を認めています。障害の状況を考慮し、必要な場合には、選抜時、就学時において、可能な配慮を行っています。また、府立養護学校の高等部では、知的障害の程度が軽度である生徒の自立と社会参加をめざし、その発達の程度に応じた教育を行っています。
普通科について	- 普通科の特色化は必要であり、今回の改革の鍵を握るものである。普通科的な専門学科も含め、特色化を推進してほしい。 - 普通科第 類には、文理系も必要である。文系、理系を選択することができきれない生徒もいる。 - 大半の中学生は何がやりたいのか、高校入学段階でわからないと思われる。そういう子どもたちの進路先として普通科を充実することが必要である。 - 個性は高校に付けるものではなく、一人一人の体験の中で培うものである。高校の多様化は、子どもを高校の個性にあわせることになり、生徒の画一化を進めるものである。 - 総合選択制の理解が得られていない。十分広報すべきである。また、総合学科との違いも不明確である。	府立高校全定員の多数を占める普通科においては、生徒の多様なニーズにこたえるよう、類・類型の充実を図るものとし、特色ある類型の設定を進めるほか、類・類型間の移動をより弾力化するなど運営面の工夫も進め、生徒一人一人の能力や個性の伸長、希望する進路の実現を図ってまいります。 また、生徒が興味・関心、進路希望などに応じてより幅広い科目の中から科目選択できるよう総合選択制や単位制等への転換も進める必要があると考えています。 さらに、改革を推進するに当たっては、中学生一人一人がより一層主体的な進路選択ができるよう、中学生、保護者などに積極的に広報を行っていくよう努めてまいります。

項目	意見の要旨	府の考え方
専門学科について	必要とされる人材について、いろんな業界団体に意見を求めることも重要である。	職業に関する学科については、これまでから産業経済界代表の委員を含む府産業教育審議会の答申等を踏まえ、産業構造の変化や科学技術の進展などに対応して学科改編を積極的に進めてきたところです。
	教員も資格取得を推進するなど、専門性の高い知識や技術の向上に取り組むべきである。	今後も、社会や産業界の変化・進展に対応し、教育課程の見直しや学科改編を行うとともに、教員の研修に努めてまいります。また、卒業後すぐに実社会で活躍できる力を育てることと併せて、大学等の上級学校への進学も視野に入れた教育を充実してまいります。
	専門学科の生徒が、円滑に大学等上級学校で学べる仕組みづくりにも力を入れてほしい。	さらに、特色ある教育を展開する新しいタイプの専門学科の新設についても検討していきます。
	役割を終えた専門学科は廃止すればよい。	
総合学科について	生徒一人一人の興味・関心にこたえ、幅広い進路実現を図るため、総合学科の設置をお願いする。	総合学科は、生徒が自己の進路への自覚を深め、普通科目と専門科目の中から学びたい科目を選択し、主体的に学習できることから、中学校卒業段階で自分の進路を決めかねている生徒、進学希望の生徒、就職希望の生徒、特色ある教育に興味を持っている生徒など様々なニーズにこたえることができる学科です。
	北部地域では、すべての生徒が学習と部活動の両立ができるように、交通の利便性等を考慮した地域に設置してほしい。	生徒や地域の状況等を踏まえ、府南部地域に2～3校設置するとともに、北部地域での増設を検討してまいります。また、設置に当たっては、自己の進路を明確にし、決定していけるようガイダンス機能の充実に努めます。
	普通科型の総合学科をつくってほしい。興味・関心のある科目、実際の職業を体験するタイプの科目などを設定してほしい。	なお、総合学科は、平成14年度現在、国公立高校では全国160校に設置されており、様々な取組にあわせ、学校が活性化した、生徒の学習意欲や進路意識が高まった、中途退学者数が激減した等の報告がなされています。
	総合学科が成功しているとは思えない。中退率が高い。単位制のシステムが弊害となっているものである。	
新しいタイプの単位制高校（フレックス・ハイスクール）について	従来の公立高校になじめない生徒、途中で進路変更する生徒などへ高校教育の機会を提供するという観点で、フレックス・ハイスクールは早期に設置する必要がある。	フレックス・ハイスクールの構想は、新しい多様で柔軟な教育システムの一環として、多様化した生徒の様々なニーズに的確に対応することをめざし、これまでの府立高校にない新しいタイプの単位制高校として具体化を図るものです。
	個に応じた学習の機会が与えられる良い制度である。府内に3カ所程度作っていただきたい。	自分のライフスタイルに応じて学習時間帯を選びたい生徒、転入学・編入学により新たな学習の場を求めている生徒、さらには、生涯学習の機会を求める社会人などにも対応できる教育の場となるよう検討を進めてまいります。
	よりきめ細やかな教育課程とともに、弾力的で多様な単位修得の方法を検討いただきたい。	フレックス・ハイスクールは、従来の定時制・通信制のシステムも含みながら、更に柔軟に、弾力化したものを構想しています。
	現在の定時制高校が担っている役割や意義を正しく理解し、それを妨害するフレックス・ハイスクール構想は取り下げてほしい。	科目選択や進路等学校生活全般についてのガイダンスやカウンセリング機能を重視するとともに、ホームルームや学校行事等の集団活動の在り方についても工夫してまいります。
	近隣の同様の学校を見ると、定時制の統廃合とセットで行われ、従来定時制に通っていた生徒が生き生きと学習できる場となっていない。また、クラス集団が成り立ちにくく、集団としての教育体験を保障しにくくなるなど課題が多い。	定時制は、元来勤労青年に高校教育の機会を保障する趣旨で設けられていますが、近年、様々な動機や学習歴を持って入学してくる生徒の割合が高まり、定時制に入学してくる生徒のうち、定職（アルバイトを除く）又は自営業への就業割合は、1割にも満たない状況となっています。
	定時制教育への手厚い施策を早急に進めていただきたい。	今後、定時制については、生徒の進路希望や志望動向などを踏まえ、新しいタイプの単位制高校の設置や全日制の多様化・柔軟化を進めながら、その在り方を検討してまいります。

項目	意見の要旨	府の考え方
中高一貫教育について	・ 6年間を通しての教育は教科の編成に無駄がなくなり、ゆとりある教育環境が確保され、子どもにとって人間性の回復と個性の伸長が図られるものと考えられるので、早期に実現を求める。子どもの発達段階を考えると、精神面をはじめ、すべての面をはぐくむ上で意義深い。 ・ 私学に追随した学校ではなく、地域に根ざした特色ある学校づくりが必要である。中・高の積極的な人事交流も必要である。 ・ 選抜方法は、受験テクニックが優秀な生徒を集めるのではなく、多様な生徒を集め、個性を伸ばすための方法を考えてほしい。 ・ 私学の中高一貫教育校に行くには経済的負担が大きい。公立の設置により、経済的にゆとりのない家庭の児童にも機会ができることになり期待している。 ・ 中高一貫教育は大学区制につながるのではないかと危惧する。小学区制の中高一貫教育なら推奨する。 ・ 6年間、対人関係が固定化することは、対人関係で何かあったとき、つらいのではないか。対人関係を変えられるシステムが必要である。 ・ 1校のみでなく、複数校の設置を望む。また、各地域に連携型もできればよい。	・ 中高一貫教育は、「ゆとりのある安定的な学校生活が送れること」や「6年間の計画的・継続的な教育指導により、効果的な一貫した教育が可能であること」、「生徒を継続的に把握することにより個性を伸長したり、優れた才能の発見がよりできること」などの利点があります。このような利点を生かし、例えば、地域性を生かした教育、自然や科学への興味・関心を高める教育、国際感覚を身につける教育などの特色ある教育を進め、生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、豊かな人間性をはぐくんでまいりたいと考えています。 - 一方で、中高一貫教育は、受験競争の低年齢化や、人間関係が6年間固定化しやすいなどの課題もあるとされており、導入に当たっては、こうした課題に十分配慮しつつ、利点を最大限に生かせるように検討してまいります。 - 入学者の決定方法については、学力検査を行わないこととされており、受験競争の低年齢化を招かないよう、発達段階に応じて適切に評価できる方法を検討してまいります。 - また、連携型などの他の形態の中高一貫教育校の設置も検討し、府民の中等教育に関する選択肢を広げるようにしてまいります。 - 中高一貫教育の実施に当たっては、府域全体を見渡し、地域の事情やニーズを踏まえ、関係市町村教育委員会の意見も聞き、十分な連携を図りながら進めてまいります。
創意工夫を生かした教育活動の展開について	・ ディベートやディスカッションスタイルの授業でグローバル社会に対応できる人材を育成してほしい。 ・ インターンシップや大学等との連携などを積極的に進めてほしい。 ・ 土曜日の有効活用を考えてほしい。 ・ 大学進学について予備校との連携も考えてほしい。 ・ 各校の特色ある取組に対して、行政的な支援が重要である。 ・ 校長のリーダーシップの強調は、校長独裁になるおそれがある。教職員の意見のくみ上げについても記述すべきである。 ・ 表彰制度や人事管理システムの導入は、社会通念上当たり前のことである。 ・ 教員の民間研修、民間人採用の拡大が必要である。 ・ 心配は教員の質である。大学進学のために塾に通わないといけないうちは、公立高校に魅力はない。教員の能力とやる気、研究心次第と考える。 ・ 施設の冷房化を含め、良い環境で学習できるよう予算措置をお願いする。 ・ 改革の方向は、地域と学校を切り離す方向を追求している。学校評議員の任命などでの校長の独断を排除する方策が必要と考える。 ・ 少人数学級を保障する教員配置が必要である。	・ 府立高校においては、望ましい職業観や社会人となるための心構えを培うため企業でのインターンシップを実施したり、生徒の意識を啓発し専門的能力を高めるための大学との連携を行うなど様々な特色ある取組を行っています。今後とも、各高校が行う教育の活性化や高校の魅力を高める取組に対して、必要な予算を措置するなど、特色ある高校教育の推進を支援してまいります。 ・ 府立高校の改革・改善の推進には、改革を推進する校長がリーダーシップを発揮し、教職員の意識改革を図るとともに積極的な力を引き出すことが極めて重要であると考えています。そのため、管理職の連携を深め、課題解決のための校内会議などの活用を図り、組織的な学校運営を確立することが必要と考えております。 - また、教員の指導力の向上はもとより、計画的な教育条件の整備、地域社会との一層の連携など、様々な取組を進め、府民の信頼を高める学校づくりを推進してまいります。 ・ 1学級の生徒数は、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律により40人が標準とされています。本府では、40人を基準としながら、学科の教育内容等に応じ、専門学科など一部において40人未満の学級としています。府立高校では、一律に学級定員を減らすのではなく、数学や英語などの教科で習熟度別学習を取り入れるなど、効果的な少人数講座の実施に努めております。

項目	意見の要旨	府の考え方
通学区域の改善について	- 多様な高校を選べるという方向は望ましい。通学圏を拡大することにより、選べるチャンスは広がる。 - 通学区域の拡大は、学校間格差の拡大と競争の激化を生じさせる。通学距離が拡大し、安全面の確保、部活動の時間の確保から考えてもマイナスである。 - 地域によっては、通える公立高校は現状以上広がらない所も多数ある。十分な検討と配慮が必要である。	府立高校の通学区域は、生徒の多様な進路希望や学習希望にこたえるため、より多くの特色ある学校・学科の中から生徒が行きたい高校を主体的に選択できるよう、関係市町村教育委員会の意見も聞きながら、改善を図ってまいりたいと考えています。 なお、公共交通機関の利便性等の通学条件、中学卒業生数の動向や志望動向、地域の状況などに配慮しながら進めてまいります。
新しい入学選抜方法について	- 希望する学校を受験できる制度、わかりやすい、透明性の高い選抜方法であってほしい。 - 住んでいる地域で高校が決まってしまう現制度は、子どものやる気を失わせるものでしかない。横並びで平等を是とする制度はこれからの時代ナンセンス。単独選抜をお願いする。 - 単独選抜は、学校間格差を肥大させ、人格をゆがめ、一層教育の衰退をもたらすものである。また、多様な高校選択もいわゆる成績上位の者には可能でも、そうでない生徒は実際選択する余地がない。 - 受験機会の複数化は、受験生自身の幅広い進路選択につながるもので賛成である。 - 受験機会の複数化は、入試制度を複雑化し、生徒にとっても中学校にとっても混乱を招くだけである。 - 学科等に応じた傾斜配点があっても良いし、一般選抜における面接なども検討するなど多様な方法があって良い。 - 学力検査の得点開示については、早急に実施する必要がある。	- 選抜方法の改善に当たっては、「自分の行く学校は自分で選びたい」という生徒や保護者の希望に応えることが大切であると考えています。そのため、多様な特色ある高校づくりを進め、その中から生徒が自分の能力・適性、興味・関心、進路希望などに応じて行きたい高校を主体的に選択できる選抜方法に改善していくことが必要であると考えています。また、生徒の多様な能力・適性、優れた面を評価するため、より多元的な評価尺度の導入、学校の特色に応じた選抜方法、受験機会の複数化などについて検討する必要があると考えています。選抜方法の改善につきましては、関係市町村教育委員会の意見も聞きながら検討を進めてまいります。 - 受験機会の複数化は、ただ一度の機会のみの選抜ではなく、生徒の学校選択の機会を拡充し、主体的な進路選択を促進するものと考えています。 わかりやすく、透明性の高いものとなるよう検討を進めてまいります。 - 生徒の多様な能力・適性、優れた面を評価するため、学力検査、面接、作文、報告書、自己申告書等多様な判定資料を用い、多元的に評価するよう検討していきます。 - 選抜方法の改善の基本的な柱に、「わかりやすく、透明性の高い選抜方法と合否判定方法」を掲げており、具体化に向け検討を進めてまいります。
その他	- 中学生や小学生及びその保護者にわかりやすく、正しい情報を知らせる機会や教育関係者への説明の機会など、府民への理解を図る積極的な広報活動をお願いする。 - 計画の全容が見えない。全体プランと年次目標が見えず、不安が出ている。一定の方向性が見えることが大切である。	- 改革は、中学生、保護者、中学校をはじめとする教育関係者などにご理解いただき、適切に進めなければならないものと考えています。 今後も、府教委の広報紙、ホームページをはじめとして様々な方法で情報を提供し、府民の皆さんに正しい情報が伝わるよう努めてまいります。 - 今回の府立高校改革推進計画（案）は、今後10年程度を見通した改革の方向性を示したものであり、具体的な実施計画については、市町村教育委員会など関係者と調整の上、複数回に分けて公表してまいります。